

# 来賓挨拶

増原 義剛  
衆議院議員

自由民主党の増原義剛でございます。私の故郷であります、ここ広島に、国内外から多くの方々をお迎えし、このような盛大な国際シンポジウムが開かれることを大変に喜ばしく思います。

今日の環境問題は、身近な廃棄物・リサイクル問題から、地球温暖化のような地球規模の問題まで多様化し、その解決には国のみならず、自治体、産業、NGO、そして国民ひとりひとりの認識と取組が求められるようになってきています。

その中で、環境ホルモンなどの化学物質問題については、私達の日常生活に密接な関わりがあり、次第に広く認知されてきておりますが、その実態については、科学的に十分には解明されておらず、理解しにくい点が多々あると思います。

また、環境ホルモンについては、子孫や種の存続に影響する恐れが指摘され、多くの国民が不安を感じているのではないかと思います。

このような国民の不安をなくし、安全と安心を確保することは、まさに政治の大きな役割であります。

このような認識のもと、自由民主党では、平成10年に「環境ホルモン小委員会」を設置し、政府と一体となって取組を進めてきました。

有害な化学物質による影響を科学的に評価し、それに基づいて未然防止を図り、また、これに関連する情報を適切に提供するなど、今後とも政治家の立場から全力を尽くして参ります。

本日から3日間、最先端の研究成果に基づいて、各国から集まった専門家の方々により討議が進められるわけですが、このような国際会議が行われることは、我が国の化学物質対策を推進する上で極めて意義深いことと考えます。こうした国際的な取組が今後とも推進されるよう支援してまいりたいと思います。

最後に、本シンポジウムのご成功を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。